

今週の  
一冊

ムハマド・ユヌス自伝

早川書房 本体価格二〇〇〇円 猪熊弘子訳

ムハマド・ユヌス  
アラブ・ジヨリス 著

開発経済学の入門教科書に  
必ず登場する銀行家の立志伝

評者 北村行伸 慶應義塾大学客員助教授

この本の目次

- 第一部 はじまり (1940~1976年)
  - ジョブラ村から世界銀行へ
  - 1 ジョブラ村にて / 2 世界銀行との関係 / 3 チッタゴン、ボクスラト通り二〇番地 / 4 少年時代の情熱 / 5 アメリカ留学 / 6 結婚とバングラデシュ独立 / 7 チッタゴン大学時代 / 8 三人農場での実験 / 9 銀行経営に乗り出す
- 第二部 実験段階 (1976~1979年)
  - 10 男性でなく女性に貸す理由 / 11 パルダで隠されている女性たち / 12 グラミンの女性行員 / 13 グラミンに参加する方法 / 14 返済方法 / 15 グラミンと一般銀行との違い / 16 農業銀行の実験プロジェクト / 17 聖なるイードの日
- 第三部 創造 (1979~1990年)
  - 18 最初はゆっくり始めよう / 19 心の壁を打ち破る / 20 自然災害との闘い / 21 グラミンのスタッフへの訓練 / 22 独立した銀行としての出発 / 23 政府からの完全独立
- 第四部 世界への広がり
- 第五部 哲学
- 第六部 新たな展開 (1990~1999年)
- 第七部 新しい世界へ

著者ムハマド・ユヌス氏は、本誌本年一月三〇日号の編集長インタビューに「マイクロクレジットを生み出し、貧困撲滅に賭ける銀行家」として登場している。「記憶に新しい方も多いかと思う」。

ユヌス氏は、貧しい人ひとに無担保で少額資金を融資し、それを元手に零細ビジネスを開始させ、自助努力によって経済的自立を促すことを目的に、バングラデシュにグラミン銀行を設立した立志伝中の人物である。本書はその立志伝である。

本書はいろいろな読み方ができると思うが、大きく二つに分けることができる。

第一に、既存の制度に疑問を抱き、それに果敢にチャレンジしていく姿勢は、ビジネスであれその他のことであれ、すべてに通じる人生の教訓として、極めて示唆に富んでいる。

すなわち、バングラデシュの寒村の女性が必要としているわ

ずかばかりのおカネを自らのポケットマネーで調達したことを皮切りに、既存の銀行業では考えられないような無担保融資を始め、試行錯誤を重ねながら、それを全国的、全世界的な制度に築き上げていった手腕、行動力は見事としか言いようがない。

もちろん、グラミン銀行は農村金融の成功例として、最近の開発経済学の教科書、入門書には必ず登場するほどの名声を確立しているが、本書によってその生成過程がつぶさにわかる。ユヌス氏のビジネスのやり方を特徴づけるとすれば、既存の組織、企業が手をつけないような分野に進出することで、競争に晒されることなく、顧客を拡大している点、また、融資を担保に基づくのではなく、グループの共同責任というインセンティブ・メカニズムに基づいて行なうなど、極めて市場・顧客重視である点などが挙げられる。

ところで、金融に関心のある

読者から見れば、実際にグラミン銀行がどのような経営をし、金利や貸出し期間についてどんな戦略をもっているのかなどは本書では詳しく触れられておらず、その点は不満が残る。

評者はグラミン銀行のホームページ <http://www.grameen.com/> に掲載されている当行のバランスシートを見てみたが、大半を他の銀行や国際機関からの資金調達に依存し、それを消費者に貸し付けており、ノンバンクの行動に近いことがわかる。もちろん、ある程度の預金は集

めているが、いわゆる平均的な銀行業とは一線を画する経営が行なわれているようである。身近にある貧困撲滅の道

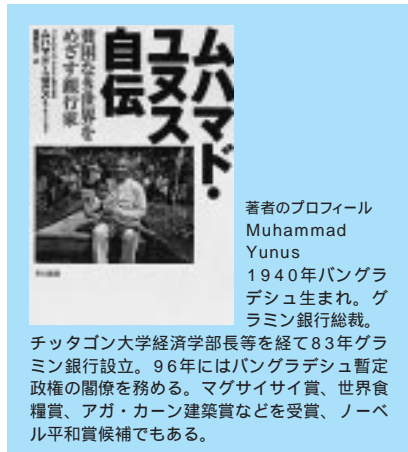
第二の読み方は、グラミン銀行の成功によって、経済発展の一つのアプローチとしての少額融資(マイクロクレジット)の重要性が認識されるようになったということである。本書でユヌス氏が批判しているように、既存の経済発展理論では、貧困は技術が不足しているために起こっているという前提に立ち、

まず技能訓練プログラムを行なうところから始めて、そこから永遠に抜け出せないような仕組みになつてしまっている。それとは逆に、マイクロクレジットでは技能訓練など行わずに、いきなりカネを渡してしまうの

である。これは、ユヌス氏によれば、「すべての人間が生まれながらの技能を持っていることを確信して」おり、「新しい技術を教えるために時間を費やすよりも、彼らにすでに備わっている技術を最大限に使えるようにしよう」と決めた「からだ」。

実際、グラミン銀行の経験から、金融面での支援が、どんなに小さなものであっても、貧しい人たちの暮らしに大きな変化をもたらすものであることがわかってきたのである。

本書の最大のメッセージは、いかにビジネスで成功するかということでもなければ、金融業の新たなあり方でもない。それは個々の人間がもつ潜在能力を最大限に発揮することを支援し、もつとも貧しく、もつとも不幸な人たちが尊敬や尊敬、そして生きる手段を獲得するのを助ける手段は、そんなにむずかしいものではなく、身近にあるということである。



著者のプロフィール  
Muhammad Yunus  
1940年バングラデシュ生まれ。グラミン銀行総裁。

チッタゴン大学経済学部部長等を経て83年グラミン銀行設立。96年にはバングラデシュ暫定政権の閣僚を務める。マグサイサイ賞、世界食糧賞、アガ・カーン建築賞などを受賞、ノーベル平和賞候補でもある。